

能 ほれ祭



能 登のキリコ祭りの先陣をきる「あ
ばれ祭」が7月7日、8日に宇
出津地区で開催されました。

初日は、宇出津港いやさか広場の前
で、5本の大松明が燃え上がり、43基
のキリコが大松明の周りを乱舞。火の
粉を浴びながら突き進む勇壮な姿に観
客らは固唾をのんで見守ります。

翌日は、酒垂・白山神社のあばれ神輿
が登場。激しく暴れるほどに喜ぶとさ
れる神のため、男たちは火や水の中に
投げ入れながら八坂神社を目指し荒々
しく進みます。未明、焼け焦げた神輿
を拝殿に納めると、すずで汚れた男た
ちの顔に安堵の表情が浮かびました。



水 水ができるしくみは?

6月30日、鵜川小学校の4年生10人が矢波浄水場を訪れ、町の上下水道について学びました。

建設水道課職員らが講師を務め、ろ過タンクや、水質試験を行っている施設を案内し、普段生活で使っている水がどのようにしてつくられているのか解説。質疑応答では「浄水場の水は凍らないの」「海の水は使わないの」など探究心を満たす質問が行われ、講師の回答に熱心に耳を傾けていました。



水がきれいになっていく様子を興味深げに観察

あ 宇出津こども祭り あばれ祭の文化 次世代に

7月5日、新村新友会は、宇出津こども祭りにキリコ1台と神輿1台を運行しました。神輿は、同会が18年間毎年修理し、子どもたちが肩を入れているものです。

祭りでは太鼓、シャンギリ、笛にあわせキリコを担ぎ、さらに黄色いタスキを掛けた神輿人足が、神輿を担ぎ練り歩きます。同会では新村に流れ着いた神様をアメヤにて祀り始まった祭りの文化を伝承し、祭りを先人からの大切な贈り物として次世代に受け継ぐべく取り組んでいます。



神輿をアメヤの川の中に投げ入れて祭りを受け継ぐ子どもたち

左から大森町長、佐野杏奈さん、久田明里さん



全 小学生全国大会出場選手激励会 全国の舞台で羽ばたけ

全日本小学生ソフトテニス選手権大会に出場する宇出津小学校6年生の久田明里さんと佐野杏奈さんペアの激励会が7月20日、役場で行われました。

久田さんは「諦めずにやりたい」、佐野さんは「短いボールはしっかり取って、長いボールは受けない」と決意を述べ、大森町長が「ベストなコンディションで臨んでほしい」と激励しました。

大会は兵庫県で8月3日から6日に行われます。

菅原神社の境内にずらりと並んだ各社の神輿



菅 菅原神社 式年大祭 菅原道真公をしのぶ

菅原神社の「菅原道真公1120年式年大祭」は、6月24日・25日の2日間の日程で行われました。

祭りは、菅原道真公の没後10年ごとに行なわれているもので、今年は1120年にあたります。能登町の鵜川、七見、小垣、谷屋と穴水町の太田川にまたがる諸橋郷の氏子が参列。初日は氏子らがそれぞれの神輿とともに菅原神社に向かって出発。訪れた人々は神事や神輿の威容を目に焼き付けていました。

夏 松波人形キリコ祭り 空のもと映える手作りの人形

松波神社の夏祭り、松波人形キリコ祭りは7月22日松波地内で行なわれました。

4年ぶりの開催となった今回。各町内が趣向を凝らして作った人形が飾られたキリコ9基と子どもキリコ2基は、昼すぎに松波神社から内浦総合支所へ出発します。担ぎ手らは、連日続く暑さにも負けず、威勢の良い声を響かせ、太鼓やシャギリ、笛の音にあわせ力強く練り歩きます。

内浦総合支所前に集結すると、人形の出来栄を競う人形審査が行われ、審査の結果、第二元組が1位に輝き、2位が平尻町、3位が御坊町となりました。



▶ 神話の天岩戸を表現 (第二元組)



渾身の力を込めて (平尻町) ◀



灯 あじさい花灯り回廊 灯りと雨が醸す幻想空間

7月1日、あじさい寺の名で知られる寺分の平等寺で「あじさい花灯り回廊」が4年ぶりに開催されました。

境内には130種4000株の色とりどりのあじさいが植えられており、雨に濡れたあじさいが、ろうそくの灯りに照らされ幻想的な美しさを放ち、訪れた家族連れやカップルなどを楽しませました。また、本堂では地元アマチュアバンドによる演奏会なども行われ会場を盛り上げました。



あじさいや灯りを熱心に撮影する様子が各所でみられた

啓発活動に出発するメンバー



非 第73回社会を明るくする運動 行や犯罪のない社会へ

7月3日、役場里山ホールで第73回社会を明るくする運動総理大臣メッセージ伝達式が行われました。

式では珠洲・能登地区保護司会の政田ますみ副会長が「地域社会、能登を支えるボランティア精神で頑張っていきたい」と決意を表明し、保護司がメッセージを代読し、大森町長と金七議長に伝達しました。メッセージ伝達後、保護司会のメンバーらは、町内の施設や企業などへ広報活動を行いました。

まちの出来事